

会 議 議 事 録 (抄)

会 議 名	専門学校東京テクニカルカレッジ 第一回 建築・インテリア系教育課程編成委員会		
開 催 日 時	平成 30 年 7 月 20 日 (金) 15 時 00 分～17 時 00 分		
会 場	専門学校東京テクニカルカレッジ 地下 1 階 テラホール、9 階 901 教室		
参 加 者	外部委員：6 名		内部委員・学内関係者：4 名
	<外部委員：6 名> (順不同・敬称略、役職は委員名簿参照) 霜野隆 (一般社団法人 日本インテリアプランナー協会) 大塚雄二 (公益社団法人建築家協会 大塚雄二都市建築設計事務所) 樋口修 (株式会社ヒグチ設計／東京商工会議所中野支部) 中山聡 (前田建設工業株式会社) 須永裕之 (清水建設株式会社 東京支店 生産総合センター) 可児才介 (可児アトリエ／一般社団法人 東京建築士会) <内部委員：4 名> 杉本安雄 (同 建築監督科科长) 野上和裕 (同 建築科科长、議長) 鈴木昇 (同 建築科夜間(建築士専科)科科长) 高山寿一郎 (同 インテリア科科长、書記)		
会 議 録	<第一部 系別分科会> 15:00～15:30 B1F テラホール 1. 運営本部長挨拶 専門学校東京テクニカルカレッジ 運営本部長 高瀬恵吾 2. 校長挨拶 専門学校東京テクニカルカレッジ 校長 白井雅哲 3. 委員のご紹介 4. 平成 29 年度第 2 回会議 (全体会議) 議事録の確認 5. 平成 29 年度事業報告 ①全体総括 ②学生募集に関する報告 ③就職状況に関する報告 ④教務指標に関する報告 ⑤ディプロマポリシー策定に関する報告 ⑥リアルジョブプロジェクトに関する報告 ⑦海外研修等特別プログラムに関する報告 ⑧卒業生調査に関する報告 6. 平成 30 年度事業報告 ①基本方針 ②カリキュラムポリシー策定に関する報告 ③シラバス改定に関する報告 ④リアルジョブプロジェクトに関する報告 ⑤厚生労働省委託事業に関する報告 <第二部 系別分科会> 15:40～17:00 901 教室 1. 議長挨拶 (野上) 2. 前回 (系別分科会) 議事録の確認 (高山) 以下、前回の議事録を訂正・追記させて頂きました。 ・労働安全法 → 労働安全衛生法 ・夜間過程、昼間の過程 → 夜間課程、昼間の課程 3. 意見交換 ・「夜間課程は一級建築士を目指しているのは、実務をされている方が多いからなのか」「資格の合格率はどのくらいなのか」「建築監督科が目指す資格は施工管理技士で、二級建築士は受験しないという認識で良いのか」(可児委員)		

→夜間課程の当面の目標は、卒業してすぐに受験が出来る二級建築士合格。一級建築士の受験の出来る範囲まで勉強をしている。最終目標は二級ではなく、一級まで目指すことを話しながら、まずは二級を合格するよう指導している。(鈴木科長)

→就職先に合わせて資格取得の指導が様々。全員に受験してもらい、全員に合格してもらいたい。(野上科長)

→教える内容は施工管理の勉強が中心。学校のシステムとしては、一級建築士、一級施工管理技士は実務を経て受験はできる。(杉本)

ディプロマポリシーに関して

・監督科のディプロマポリシーは、QCDS を目標としている。(杉本)

議事録 p.3 VE の授業の必要性に関して→コストプランニングの授業で行っている。

躯体の品質管理の勉強 → 生産管理 1～8 で学習している。

現場での構造力学の勉強(親杭等) → 構造力学 6～10

コストに関しての勉強 → 教材(例示)が物足りない

工程管理に関しての勉強 → 標準工程を簡単に出すソフトの使用には至っていない。

施工計画書に関しての勉強 → 生産管理の授業で行っている。

今まで頂いたご意見を授業に組み込ませていただいている。教員のスキルが問題(産学連携)。

・建築科のディプロマポリシー 特に変更はない。(野上)

CG の授業で使用するソフトを変更し、すでに住宅一棟を CG で作成できている。

1 年生では木造の平面図、立面図、断面図、展開図の他に、この先伏せ図、軸組図の作成を行っていく(変更のあったカリキュラムが動き始めている状態)。2 年生で、RC 造、S 造の勉強。

・建築科夜間課程のディプロマポリシー 特に変更はない。(鈴木)

2 年間の中で建築の基本を偏りなく理解してもらい、建築の設計手法をしっかり学んでもらう。昼間課程に比べると作業の時間が半分なので、必要なことから作業してもらい、手描きだけでなく、CAD、CG の作成もできるようになってもらう。

・インテリア科のディプロマポリシー 特に変更はない。(高山)

図面の読み描きが出来た上で、自分の計画を 2D、3D を使用して表現できる。

色や照明などの情緒的なことも含め、インテリアエレメントの特徴を理解してインテリアコーディネートができる。

議長より 4 年制、2 年制のカリキュラムポリシーの説明。

各科の特徴が出るカリキュラムの編成の項目や授業の特徴を各科から説明。

建築科(野上)

一年次に、木造住宅の設計ができる(実際の木造住宅の確認申請に必要な図面の作成)。

各科目の繋がりを考えた体系的な授業の組み立て。

実務に即した図面作成(産学連携の体験的な授業)。

建築監督科(杉本)

・管理ができる監督を目指す。

・産学連携インターンシップ → 何を伝えるか、授業を確認できるインターンシップ先はないか。机上と現場での乖離の近づける工夫が必要。

建築科夜間(鈴木)

大学は自由度が高い。専門学校選択科目が無い。夜間課程は、現場で働いている方が居て、個人的な目標が違う。基本的な技術は身に付けさせる。難しい科目は細分化している。科目

	の好き嫌いは減らせていると思う。効率良く学べるように考えている。課題の出し方に工夫。 目先を変え新しい先生を招いて授業を実施している。 インテリア科（高山） 図面の読み描きが出来た上で、自分の計画を2D、3Dを使用して表現できる。 インテリアエレメントを校外学習で実物をとおして学習し、住宅の提案に活かすことができるようになる。 インターンシップには（設計事務所で）働く覚悟を確認しに行ったような気がする。学生にどのように仕事や勉強に関しての覚悟を身につけさせるかが大切だと思う。（大塚委員） リノベーションを行うには、建築士の法規・構造・設備の知識が必要。建築の中にはリノベーションという文言が入っていない。これからは必要だと考える。（霜野委員） 監督科―品質管理について、現場で漏水をさせないということはとても重要なことだが、漏水を防ぐディテールのどこが肝なのかが重要。1/100、1/50 レベルではなく、原寸レベルで触れると良いと思う。（須永委員） 設計事務所に行く学生は多いのか。（樋口委員） →建築科の学生は少ないがいる（減っている）。（野上科長） 4. 次回日程（議長） ・平成30年度 第二回 教育課程編成委員会 平成30年11月22日（木）15時00分～17時00分 5. 閉式の辞（議長） 以上
--	--